

施策名 組織犯罪対策の推進

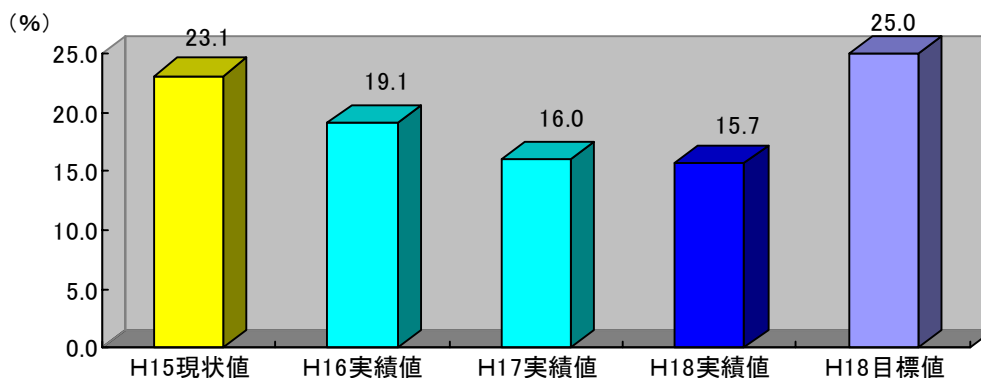
○ 目的（対象、意図）

暴力団犯罪、来日外国人犯罪、銃器・薬物犯罪など、主に組織を背景にして敢行される犯罪が、検挙対策の強化や関係機関・団体等と連携した活動の推進によって減少している

○ 施策の目標

目 標 項 目	目 標 数 値 等
暴力団検挙率	目標値
	18年
	25%
	現状値
	15年
	23.1%

暴力団検挙率



○ 平成18年の業務ごとの取組、成果とコスト

業務の取組と成果	平成18年事業費(千円)	平成19年事業費(千円)
1 銃器・薬物犯罪対策の推進 ○ 暴力団員等によるけん銃隠匿事犯の摘発を強化するとともに、各関係機関等との連携による水際対策を始め、県民の理解や協力を確保するための積極的な広報活動などの銃器犯罪対策を推進した。 ○ 覚せい剤等の薬物事犯の摘発を強化し、末端乱用者等を徹底検挙するとともに、関係機関等との連携による水際対策、薬物乱用防止啓発活動の普及を目指した積極的な広報活動などの薬物犯罪対策を推進した。	1,885	2,008
2 暴力団総合対策の推進 暴力団幹部によるけん銃使用殺人事件等の凶悪事件を検挙するとともに、関係機関等との連携による暴力団排除活動などの暴力団総合対策を推進した。	13,404	12,611
3 来日外国人犯罪対策の推進 組織化、凶悪化、広域化する来日外国人犯罪に対し、関係都道府県警察との情報交換や共（合）同捜査を推進し、組織的な強盗及び窃盗事件等を検挙した。また、関係機関等と連携して在住外国人総合対策を推進した。	70,036	64,203

○業務評価を踏まえた総括評価

・目標達成に向けた平成18年の取組と成果

●けん銃発砲事件など、銃器使用犯罪に対する県民の不安を解消するため、けん銃隠匿事犯の摘発に向けた各種対策を推進し、暴力団員等からけん銃を押収した。

●薬物犯罪組織の壊滅、「第三次覚せい剤乱用期」の早期終息を目指し、末端乱用者の徹底検挙など各種対策を推進したが、薬物検挙人員は減少した。

●暴力団員等による殺人事件などの凶悪事件を解決したが、暴力団員の検挙人員は減少した。

●組織化、凶悪化、広域化する来日外国人犯罪に対応するため、関係機関・団体との連携を強化し、来日外国人犯罪の防止・検挙を図るとともに、外国人との共生社会づくりを目指し、広報啓発活動及び自治体やNPO法人等関係団体の活動に対する支援等を実施した。

・残った課題とその要因

●薬物、暴力団の検挙人員、けん銃押収丁数等が、前年に比べそれぞれ減少した。その理由として、銃器・薬物の密輸・密売組織や暴力団、来日外国人等の犯罪組織は、組織実態を隠ぺいする動きを強めるとともに、活動形態においても企業活動を装ったり、政治活動や社会運動を標榜するなど、不透明化の傾向を強めていることから、事案の全容解明に長期捜査を要するなどの要因がある。

●暴力団や来日外国人犯罪組織等は、組織構成員の共犯事件などに見られるように、各犯罪組織が相互に連携して活動し、共存共栄を図ろうとする傾向にあり、組織の枠を越えた銃器・薬物等の犯罪を敢行するおそれが強い。このことから、組織犯罪に係る情報の一元管理を徹底し、統一的・戦略的な組織犯罪対策を一層強化することが喫緊の課題になっている。

●外国人と地域住民の相互の理解、交流の不足から様々な問題が生じている。

・課題を踏まえた平成19年の取組み

●銃器・薬物犯罪対策については、捜査情報の交換など、関係機関との一層の連携を図り、

- ・薬物犯罪組織の実態解明と末端乱用者の検挙徹底
- ・犯罪組織による銃器管理の実態解明と犯罪組織の壊滅に向けた銃器の摘発
- ・組織犯罪に対応した捜査手法の積極的活用と関係機関等と連携した水際対策の推進

に取り組む。

●暴力団総合対策については、

- ・組織実態解明
- ・資金源、人的資源に打撃を与える取締り及び暴力団関係企業に対する取締り
- ・暴力団排除活動の推進
- ・暴力団被害の防止及び被害者の支援

に取り組む。

●暴力団、来日外国人等による組織犯罪を減少させるため、暴力団犯罪の徹底検挙を重点として、情報の集約、分析と戦略的な諸対策を推進し、組織的に敢行される銃器・薬物犯罪、来日外国人犯罪等の検挙向上を図る。

●在住外国人対策については、在住外国人と地域住民が安心して生活していける共生社会づくりを目指し、関係機関・団体等との連携を一層強化する。